

国語

「国語」の出題意図

中等教育段階までに身に付けてきた、国語を適切に表現し的確に理解する能力を評価する。また、思考力、想像力、言語感覚、言語文化に対する関心についても、評価の範囲とする。

「現代文」においては、人間の生き方、自然と人間のつながり、社会と人間のつながり、芸術・文学、文化・文明、言語などに関する文章を取り上げ、筆者の独自な考えを読み取り、科学的、論理的に思考し、表現する力を問う。

古典（「古文」「漢文」）においては、古典の本質的な価値や古典享受の現代的意義について考えるのに適した文章を取り上げ、古人のものの見方・考え方などを読み取ること、作品を支えている時代・社会・文化などと関連づけて考えること、古典特有の構成・展開、文語のきまり、訓読のきまり、ならびに語句の意味・用法などを通して理解すること、を評価の観点とする。

なお、解答の文章については、以下の点を評価する。

- ・ 問題文の内容を叙述に即して正確に読み取り、理解したことを、それぞれの設問の意図に沿って表現しているか。
- ・ 指示された字数で設問の意図に沿って文中の語句を使い、的確・簡潔にまとめているか。
- ・ 「主語―述語」のきちんと呼応した文になっているか。
- ・ 接続表現の使い方は適切か。
- ・ 誤字・脱字がないか、など。

現代文

問題文は、日本社会に規範として作用している「世間体」について、人が生きる上での「価値の置き方」や「宗教」などの観点から、その在りようについて述べたものである。筆者の論旨を読み取り、設問の意図に沿って適切に表現する力を問う。

問一 文脈上の意味を理解した上で、その意味に合った適切な漢字の書き取りが正確にできるかどうかを問う。

問二 人は生きる上で、どのようなことに価値を置かなければ生きていけないのかについて、論理構造を踏まえ、筆者の考えをわかりやすく説明できるかどうかを問う。

問三 筆者の考える「内面化の恐ろしさ」の内容について、論理構造を踏まえ、わかりやすく説明できるかどうかを問う。

問四 筆者の考える「人間はフィクションの中に生きている」ということばの二つの意味について、論理構造を踏まえ、それぞれを区別しながらわかりやすく説明できるかどうかを問う。

問五 筆者の考える「社会共通の規範を有していない」日本社会がどのような社会であるかについて、「宗教」との関係を示した上で、人々が規律的に行動できる理由について、論理展開を踏まえ、わかりやすく説明できるかどうかを問う。

□ 古文

鎌倉時代の説話集である『撰集抄』に収められている伊勢を主人公とした歌徳説話を題材にして、古文の基本的な読解力を問う。本文の内容を踏まえつつ、設問の意図に沿って適切に表現する力を問う。

問一 傍線部に含まれる重要語句の意味や用法について正確に理解し、文脈に合わせて適切に現代語訳できるかどうかを問う。

問二 本文の文脈を把握した上で、動詞「あり」が持つ古文特有の意味を押さえてわかりやすく現代語訳できるかどうかを問う。

問三 伊勢が夢のお告げに従って寺を退出して以降の本文の記述を踏まえ、伊勢にとっての「思はざること」とは何だったのかを適切にまとめることができるかどうかを問う。

問四 傍線部が検校の心中思惟文であることを踏まえた上で、プラス・マイナス両方の評価に用いられる重要古語「わりなし」や願望の終助詞「がな」を文脈に合わせて適切に現代語訳できるかどうかを問う。

三 漢文

原念斎『先哲叢談』所収の明の儒学者朱舜水の伝記中の文章を題材にして、漢文の基本的な読解力を問う。朱舜水の日本亡命後の生き方を正確に読み取れるかどうかに着眼して出題した。

問一 漢文に用いられる基本的な語句について正しく理解しているかどうかを問う。

問二 文脈に沿って傍線部を適切な表現を用いて現代語訳できるかどうかを問う。

問三 漢文書き下しに必要な基本的事項及び漢文の慣用表現について理解しているかどうかを問う。

問四 文脈に沿って指示語の内容を正確に把握し、傍線部を適切な表現を用いて現代語訳できるかどうかを問う。

問五 本文全体の内容を踏まえ、新井白石が「可憫哉」と評した朱舜水の生き方を正確に説明できるかどうかを問う。